



第42回

沖縄のさらなる発展に向けた 道路ネットワーク等の整備

沖縄の持つポテンシャルを活かすために



山田 哲也

YAMADA Tetsuya

一般財団法人日本建設情報総合
センター 審議役
(元)内閣府沖縄総合事務局次長

はじめに

令和6年7月より沖縄に1年3カ月勤務し、日々の生活を通じて最も強く感じたのは、沖縄の持つポテンシャルでした。沖縄は、那覇市を中心に都市機能が集積し人口は増加傾向にある「中・南部地域」、やんばるの森等豊かな自然環境を有する「北部地域」、そして個性豊かな自然や文化などの貴重な財産を有する「離島地域」で構成されており、各地域が特色を生かしながら、多くの可能性を醸成しています。そのポテンシャルを示すように、昨年7月には、北部地域の新たな観光拠点としてテーマパーク「ジャングリア沖縄」が開業しました。全国で広く宣伝され、ご存じの方も多いと思いますが、沖縄の魅力はこうした話題の施設にとどまらず、まだまだ潜在する大きな可能性があると感じています。

また、沖縄は、本土から遠隔で広大な海域（東西1,000 km、南北400 km）に多数の離島がありますが、見方を変えて那覇を中心に円を描くと、概ね1,500 kmの圏内に香港、マカオ、ソウル、東京などが入る東アジアの中心に位置しており、東・東南アジアに対する地理的優位性があることも特徴です（図-1）。

沖縄で事業を進めるには、これまでの歴史的事情に加え、国土面積0.6%の県土に在日米軍専用施設・区域の70.3%が集中する社会的事情や、我が国でも稀な亜熱帯・海洋性気候や台風常襲・深刻な塩害等の自然的事情を考慮する必要があります。そうした中、沖縄総合事務局は、急速に時代が変わりゆく昨今、沖縄の持つポテンシャルが遺憾なく発揮できるように、関係機関と連携し、社会インフラの計画・整備・維持・更新を担っています。

本稿では、沖縄の生活や経済の発展を支えてきた道路整備の取り組みについて取り上げます。



※沖縄観光コンベンションビューローHP掲載図に一部加工

図-1 沖縄の位置関係

1. 道路ネットワークの整備状況

(1) 整備方針

沖縄では、平成15年に戦後初となる軌道系公共交通機関として沖縄都市モノレール（ゆいレール）が開業しましたが、陸上交通は道路への依存度が高く、積極的な道路ネットワーク整備が進められています。しかし、人口または自動車台数当たりの道路延長は未だ全国平均に満たない水準で、近年は那覇都市圏を中心に交通渋滞が一層深刻化しており、特に、通勤時間帯の道路渋滞は、全国の県庁所在地の中でも特に深刻な状況です（図-2）。この状況は県民の皆様の生活のみならず、観光や物流、産業活動にも影響を及ぼしており、沖縄のさらなる発展

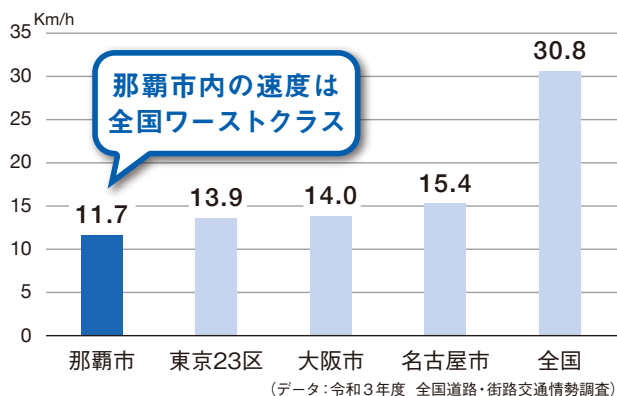


図-2 混雑時旅行速度

に向けた大きな課題となっています。こうした課題の解消に向けて、沖縄では国道58号、沖縄自動車道、国道329号の3本の本島縦貫道路を柱に、東西連絡道を連結していく「ハシゴ道路ネットワーク」の整備が進められています(図-3)。

(2) 主な事業

○那覇空港自動車道

本土から遠隔の地にある沖縄にとって、重要な結節点是那覇空港です。那覇空港では令和2年に第2滑走路が供用されていますが、今後の利用客増を想定すると、空港へのアクセス整備は必要不可欠といえます。

現在、沖縄総合事務局で重点的に予算投入している那覇空港自動車道は、那覇空港までの残るミッシングリンク区間全体にわたってトンネルや高架橋等の工事が展開されています(写真-1)。

これにより那覇空港と本島各拠点が高速道路で結ばれ、利便性や定時性が大きく向上することで、沖縄全体のさらなる活性化につながることが期待されています。

○名護東道路の延伸

また、沖縄本島では、中・南部地域は都市化が進んでいますが、北部地域においても、先に述べたテーマパーク「ジャングリア沖縄」が昨年7月に開業し、新たなフェーズに入りつつあります。同地域では、同施設の将来的な発展を見据えつつ、災害対応などの観点から現在の道路ネットワークに対する課題が指摘されています。このため、沖縄の均衡ある発展に向けて、名護東道路の延伸として、名護市から本部町を結ぶ区間の検討が進められています(図-4)。

名護東道路の延伸は、令和6年度に計画段階評価に着手し、その手続きを終えた現在、環境影響評価手続きへ

移行しています。このように事業化に向けた取り組みが迅速に進められていることから、関係者の期待の大きさがうかがえます。



図-3 ハシゴ道路ネットワーク図



写真-1 那覇空港自動車道整備状況

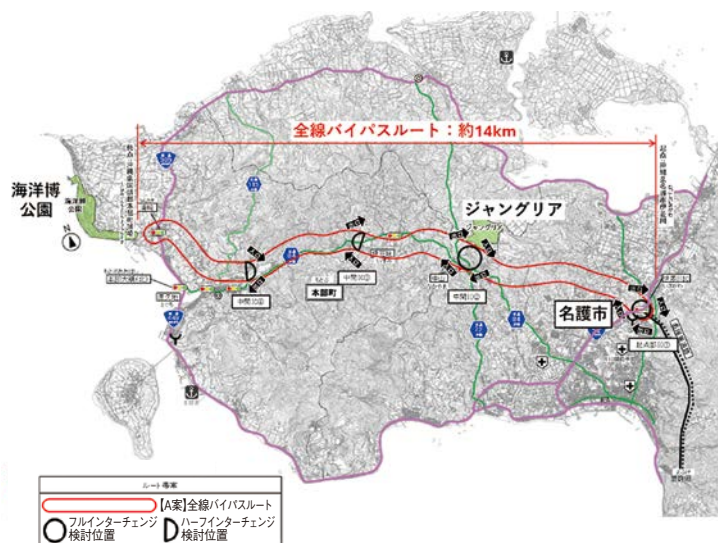


図-4 名護東道路の延伸

2. 沖縄のポテンシャルを活かすための工夫

沖縄の交通インフラは、もともと需要に対して十分なストックが形成されているとはいえない状況でしたが、近時の急激な需要増加がこれに拍車をかけ、なかなか供給が追いつかないという現実があります。ハード整備が概成したうえでのソフト施策ではありますが、沖縄のさらなる振興を図るため、暫時はハード整備と並行して交通需要面にも働きかけ、スマートにインフラストックを使う方向性を目指すことが上策です。

そこで沖縄総合事務局では、交通結節点の整備・拡充やバスレーン等の機能拡充により、公共交通の利便性向上を図る取り組みを進めています。具体的には、北部地域の主要都市であり玄関口でもある名護市と、県内第2の人口を擁する中部地域の中核となる沖縄市で、まちづくりと連携した交通拠点の整備を推進しています。現在、「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン」の策定を踏まえ、県内で初めてとなるバスタプロジェクトの計画が検討されています(図-5)。

○名護バスタプロジェクト

名護市では、既存のバスターミナルが中心市街地と約2km離れており、また、県内最大級規模の観光施設である「沖縄美ら海水族館」(本部町)へ向かう観光交通が集中することから、国道58号では慢性的な渋滞が発生しています。こうした課題への対応に加え、名護市のまちづくりの核としてもバスタプロジェクトは重要であり、「暮らす人・訪れる人、誰もが利用しやすく居心地の良い新たなやんばるの玄関口となる臨海部のバスタ」と



図-5 交通軸構築に向けたプロジェクト

して、令和7年11月に「交流等機能」、「交通機能」、「防災機能」を盛り込んだ整備方針が公表されました(図-6)。

同方針では名護市まちづくりと一体となって、公共交通の利用促進、多様な交通モードとの連携強化を図るとともに、沖縄本島北部地域(やんばる)や名護市街地周辺との回遊性の向上などを図ることとされており、北部地域の玄関口にふさわしいバスタの実現に向けた取り組みが進められています。

○胡屋バスタプロジェクト

沖縄市胡屋地区では、郊外への大型商業施設の進出に伴い、当該地区の商店街は客足が遠のいていましたが、スタートアップ企業などの進出も踏まえ、周辺の商店街を含めたまちの活性化も視野に入れた取り組みが進められています。胡屋バスタを中心とするウォークアブルエリアの形成に加え、沖縄市を4つのエリアに区分し、各エリアの周辺施設との回遊性向上を目指す「沖縄市交通拠点整備基本構想」が策定されています(図-7)。

今後は、周辺の既存施設(商店街や駐車場等)とのアクセス向上をはじめ、地域活性化につながる交通結節点として求められる機能や施設配置について、「胡屋地区交通結節点整備検討委員会」において議論が進められる予定です。

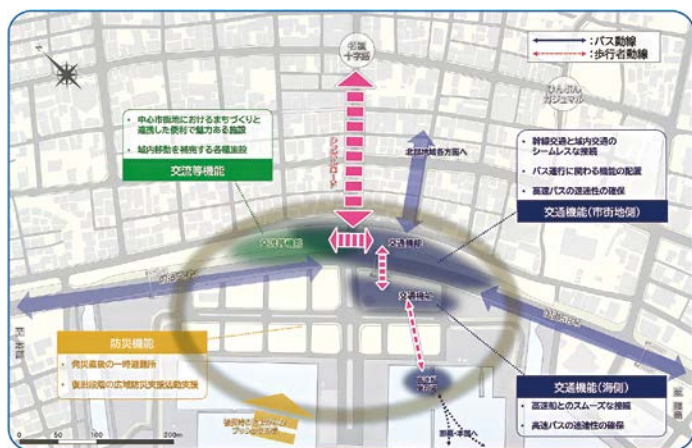


図-6 名護市総合交通ターミナル整備方針（抜粋）



図-7 沖縄市交通拠点整備基本構想（抜粋）

3. ネイチャーポジティブの取組

さらに北部のやんばる地域では、この地域独自の取り組みも進められています。中・南部地域で都市化が進む一方、北部地域はやんばるが世界自然遺産として登録可能な状態で保存され、豊かな自然環境がこの地域の魅力の一つとなっています。

当地は、国指定天然記念物で絶滅危惧種に指定されているヤンバルクイナやケナガネズミの生息地になっており、令和7年10月には事故多発時期を迎えたケナガネズミのロードキル多発箇所・時期・時間帯の分析、効果的な対策箇所・方法の検討を実施し、ピクトグラムの路面標示を実施しました（写真-2, 3）。また、地元関係者と一体となって、小学校の生徒にケナガネズミロードキル防止ポスターの製作を依頼し、県内のコンビニエンスストア等へのポスター掲示等も進めています。

北部地域のように、豊かな自然によるポテンシャルを活かすことが求められるエリアでは、自然環境を保全し、生物に優しい人と動物が共存できる道路整備の工夫が、特に必要になると感じます。



写真-2 路面標示



写真-3 注意喚起標識

おわりに

今回、沖縄本島を中心に積極的に進めている道路ネットワークの整備状況に加え、インフラストックを効果的に活用する方策として、名護市や沖縄市で取り組んでいるバスタプロジェクト構想等をご紹介します。

このように、沖縄に潜在するポテンシャルの発揮を支える社会インフラについては、整備途上にあるハード整備を推進し、ストックを形成していくことが重要です。また、それらを効果的・効率的に活用するための工夫も併せて推進することで、社会インフラを基盤とした沖縄振興のさらなる加速が期待されます。

沖縄は島嶼県であり、ある意味日本の縮図のような一面があります。実際に沖縄で生活してみると、沖縄の復興や経済成長を支えてきたのはインフラ整備であること、言い換えれば、沖縄のポテンシャルを活かすためには、道路ネットワークの整備・活用は不可欠であることを強く認識しました。このようなプロジェクトに携わる機会を頂いたことに感謝致します。

末筆になりますが、本稿の執筆にあたり、内閣府沖縄総合事務局開発建設部の皆様に、資料の提供など多大なご協力を頂きました。感謝を申し上げます。

参考文献

- 1) 内閣府沖縄総合事務局開発建設部：「沖縄本島の交通軸構築に向けた公共交通拠点整備について」、「沖縄やんばる地域におけるネイチャーポジティブの取組み」（「交通工学」2026年4月1日）

その他の記事は「日本みち研究所HP」で公開しています

国道をゆく エリア別一覧

検索

rirs.or.jp/kokudo/